暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二五九号〜

秋分　九月二十三日

神宮大麻暦頒布始祭

早いもので書店などには来年のカレンダーや手帳が並び始めました。来年の予定など、なにかと来る年を意識し始める時期です。伊勢神宮でも、来年の御札（神宮大麻）や暦を配り始めるにあたり、神宮大麻暦頒布始祭が十七日に内宮神楽殿で全国の神社関係者が集まり、執り行われました。これが済むと、新しい御札や神宮暦が配布されるようになります。

神宮の御札の始まりは、伊勢の御師といいます。江戸時代、お伊勢参りに来た人々は御師邸で御神楽をあげますが、その際お祓いに使用した祭具の大麻（長細い白木）を一本ずつ和紙でくるんだものが渡されました。それを御祓大麻と呼び、お伊勢参りの証明書にしたのです。神宮の御札には長方形の角祓と剣先の形をした特有の剣祓がありますが、この剣祓が、大麻の芯であった木が見えるように和紙で包んだ御祓大麻を受け継いでいます。

当時、伊勢参宮は代参といって、伊勢講というグループを結成し、その代表だけが伊勢まで来ていたため、御祓大麻がお伊勢参りの証明になり、里で待つ人々に配られたのです。人々は御祓大麻を神棚や鴨居などに掲げ、拝んでいたようです。この御祓大麻は江戸時代、日本の約九割に配布されたほどで、伊勢信仰の広がりがうかがえます。伊勢の御札は御師の知恵で生まれたものだったのです。

それが明治四年の神宮改革で、御師制度が廃止となり、明治天皇の思し召しにより神宮が神宮大麻を奉製することになりました。もう全国に御札を配った御師がいませんから、今度は全国の神社から年末、各家庭に配布されるようになり、今に至ります。

同じように江戸時代、御師が配った伊勢暦も、軽くて便利なことからお伊勢参りの土産になりました。それも神宮暦として現在も神宮の授与所で受けられます。

文　千種清美

伊勢内宮前
おかげ横丁